

原規放発第 2202224 号  
令和 4 年 2 月 22 日

農林水産大臣 金子 原二郎 殿

放射線審議会会長 甲斐 倫明  
(公印省略)

獣医療法施行規則の改正について (答申)

令和 4 年 1 月 24 日付け 3 消安第 5539 号をもって諮問のあった事項については、妥当である。

なお、当審議会は獣医療法施行規則の改正後の対応において留意すべき事項を以下のとおり申し添える。

1. 対象となる手持ち撮影を意図する口内法撮影用エックス線装置の装置表面の放射線量の評価において、「**0.05** ミリグレイ毎時以下」という表現は、**IEC60601-2-65.2021** の要求に従えば、1 時間の累積線量が **0.05** ミリグレイを超えないことという趣旨であるため、その旨の理解が得られるよう、関係機関に周知すること。

3消安第5539号  
令和4年1月24日

放射線審議会  
会長 甲斐 倫明 殿

農林水産大臣 金子 原二郎

獣医療法施行規則の改正について（諮問）

獣医療法施行規則（平成4年農林水産省令第44号）を別添のとおり改正することについて、放射線障害防止の技術的基準に関する法律（昭和33年法律第162号）第6条の規定に基づき、貴会の意見を求める。

○農林水産省令第 号

獣医療法（平成四年法律第四十六号）第五条第二項の規定に基づき、獣医療法施行規則の一部を改正する省令を次のように定める。

令和 年 月 日

農林水産大臣 金子原二郎

獣医療法施行規則の一部を改正する省令

獣医療法施行規則（平成四年農林水産省令第四十四号）の一部を次のように改正する。

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分（以下「傍線部分」という。）でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分があるものは、これを当該傍線部分のように改め、改正後欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正前欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを加える。

(エックス線装置の防護)

第八条 診療施設の管理者は、エックス線装置について、次に掲げる措置を講じなければならない。#

一 エックス線管の容器及び照射筒は、利用線すい以外のエックス線量が次に掲げる自由空気中の空気カーマ率（以下「空気カーマ率」という。）になるようにしやへいすること。

イ・ロ (略)

ハ 定格管電圧が百二十五キロボルト以下の手持ち撮影を意図しない口内法撮影用エックス線装置にあつては、エックス線管焦点から一メートルの距離において、〇・二五ミリグレイ毎時以下

ニ 定格管電圧が百二十五キロボルト以下の手持ち撮影を意図する口内法撮影用エックス線装置にあつては、装置表面において、〇・〇五ミリグレイ毎時以下

ホ イからニまでに掲げるエックス線装置以外のエックス線装置にあつては、エックス線管焦点から一メートルの距離において、一・〇ミリグレイ毎時以下

ヘ (略)

二 (略)

2 (略)#

3 診療施設の管理者は、撮影用エックス線装置について、第一項に規定するもののほか、次に掲げる措置（CTエックス線装置にあつては、第一号に掲げるものを除く。）を講じなければならない。#

一・二 (略)

三 携帯型エックス線装置のうち、手持ち撮影を意図する口内法撮影用エックス線装置にあつては、公称管電圧七十キロボルトで〇・二五ミリメートル鉛当量以上の取り外しのできない後方散乱エックス線シールド構造を備えること。

4 (略)#

(エックス線装置の防護)

第八条 診療施設の管理者は、エックス線装置について、次に掲げる措置を講じなければならない。

一 エックス線管の容器及び照射筒は、利用線すい以外のエックス線量が次に掲げる自由空気中の空気カーマ率（以下「空気カーマ率」という。）になるようにしやへいすること。

イ・ロ (略)

ハ 定格管電圧が百二十五キロボルト以下の口内法撮影用エックス線装置にあつては、エックス線管焦点から一メートルの距離において、〇・二五ミリグレイ毎時以下

(新設)

ニ イからハまでに掲げるエックス線装置以外のエックス線装置にあつては、エックス線管焦点から一メートルの距離において、一・〇ミリグレイ毎時以下

ホ (略)

二 (略)

2 (略)

3 診療施設の管理者は、撮影用エックス線装置について、第一項に規定するもののほか、次に掲げる措置（CTエックス線装置にあつては、第一号に掲げるものを除く。）を講じなければならない。

一・二 (略)

(新設)

4 (略)

## 附 則

### (施行期日)

1 この省令は、令和七年四月一日から施行する。

### (経過措置)

2 この省令の施行の際現に診療施設に備えられているエックス線装置に対するこの省令による改正後の獣医療法施行規則第八条の規定の適用については、なお従前の例によることができる。